

マスクROM番号	
----------	--

ルネサスシングルチップ8ビットマイクロコンピュータ  
M37150MF - XXXFP  
マスク化確認書

受付欄	年 月 日
	課長印 担当者印

(注) 印をすべて記入ください。

貴社 記入欄	貴社名	殿 TEL ( )	発行 印	責任者印	担当者印
	発行日	年 月 日			

1. 御確認表

発注される品種名および提出いただくEPROM、またはフロッピーディスクを指定してください。

EPROMで発注される場合は1パターン当たりEPROMが3セット必要です。フロッピーディスクで発注される場合1パターン当たりフロッピーディスクが1枚必要になります。

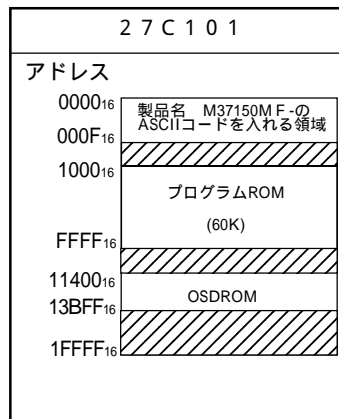
EPROMの場合

当社では提出いただいた3セットのEPROMの内、少なくとも2セットの内容が同一であれば、この内容のデータによってマスク作成を行います。したがって、このデータと生産される製品に焼きつけられるROMデータが異なる場合のみ当社はその責を負います。提出いただくEPROMデータの内容については十分に確認をお願いします。

EPROMの全領域のチェックサムコード

--	--	--	--

(16進表示)



(ご注意)フロッピーディスクで提出される場合は、左記の製品形名領域にはデータを入れないで下さい。

- (1) 斜線部分には“FF<sub>16</sub>”を入れてください。
- (2) 0000<sub>16</sub> ~ 000F<sub>16</sub>番地は製品形名のデータ格納領域です。‘M37150MF-’のASCIIコードを右記に示しますので、0000<sub>16</sub> ~ 000F<sub>16</sub>番地には必ず右記のデータを書き込んでください。番地、データとも16進表記です。
- (注) EPROMに書き込まれた形名と、マスク化確認書の形名が一致しない場合、ROM処理ができませんので正確をお願いします。

アドレス	
0000 <sub>16</sub>	' M ' = 4D <sub>16</sub>
0001 <sub>16</sub>	' 3 ' = 33 <sub>16</sub>
0002 <sub>16</sub>	' 7 ' = 37 <sub>16</sub>
0003 <sub>16</sub>	' 1 ' = 31 <sub>16</sub>
0004 <sub>16</sub>	' 5 ' = 35 <sub>16</sub>
0005 <sub>16</sub>	' 0 ' = 30 <sub>16</sub>
0006 <sub>16</sub>	' M ' = 4D <sub>16</sub>
0007 <sub>16</sub>	' F ' = 46 <sub>16</sub>

アドレス	
0008 <sub>16</sub>	' - ' = 2D <sub>16</sub>
0009 <sub>16</sub>	FF <sub>16</sub>
000A <sub>16</sub>	FF <sub>16</sub>
000B <sub>16</sub>	FF <sub>16</sub>
000C <sub>16</sub>	FF <sub>16</sub>
000D <sub>16</sub>	FF <sub>16</sub>
000E <sub>16</sub>	FF <sub>16</sub>
000F <sub>16</sub>	FF <sub>16</sub>

ルネサスシングルチップ8ビットマイクロコンピュータ  
M37150MF - XXXFP  
マスク化確認書

フロッピーディスクの場合

当社では提出いただいたフロッピーディスクのファイルの内、マスクファイル生成ユーティリティーで生成されたマスクファイル进行处理してマスク化を行います。したがって、このマスクファイルと生成される製品に焼きつけられるROMデータが異なる場合のみ当社はその責を負います。提出いただくマスクファイルの内容については十分に確認をお願いします。

フロッピーディスクは3.5"2HD/IBMformatで用意してください。また、フロッピーディスクに収めるマスクファイルは一つだけにしてください。

ファイルコード

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

(16進表示)

マスクファイル名

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

.MSK(英数字8桁)

(ご注意)フロッピーディスクで提出される場合は、製品形名を入れないで下さい。

ROMデータ領域以外には、データを入れないで下さい。

2. マーク指定

マーク指定は、別紙のマーク指定書に御記入の上、本マスク化確認書に添付して提出下さい。

M37150MF-XXXFPは42P2Rのマーク指定書を提出下さい。

3. 特記事項

フォントデータは以下の対応表に従ってOSDROMの所定のアドレスに格納して下さい。

<キャラクタフォントデータのOSDROM格納アドレス>

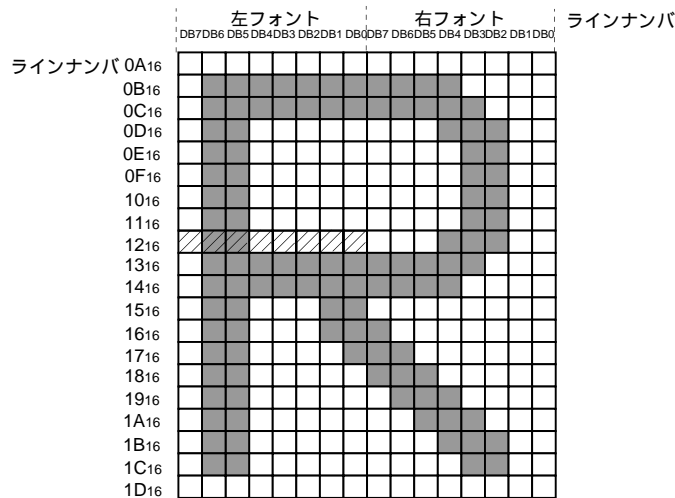
OSDROMアドレスビット	AD16	AD15	AD14	AD13	AD12	AD11	AD10	AD9	AD8	AD7	AD6	AD5	AD4	AD3	AD2	AD1	AD0
ラインナンバ/文字コード /フォントビット	1	0	0	ラインナンバ						文字コード							フォント ビット

ラインナンバ = 0A<sub>16</sub> ~ 1D<sub>16</sub>

文字コード = 00<sub>16</sub> ~ FF<sub>16</sub> (但し、7F<sub>16</sub>、80<sub>16</sub>は使用できません。)

フォントビット = 0 : 左フォント  
= 1 : 右フォント

例) 文字コード“AA<sub>16</sub>”の斜線部のフォントデータ“60”は 1 0 0 1 0 0 1 0 1 0 1 0 1 0 1 0 0 2番地=12554<sub>16</sub>番地に格納されます。



文字コード“AA<sub>16</sub>”

注1) OSDROM領域内で、7F<sub>16</sub>,80<sub>16</sub>の文字コードに対応するアドレス(80バイト分)は、検査用データ格納領域です。本領域には“FF<sub>16</sub>”を入れて下さい。(この領域は、当社にて検査用データを格納しますので、実際の製品では“FF<sub>16</sub>”とは異なるデータになります。)

<検査用データ格納領域>

… 11000<sub>16</sub>+(4+2n) × 100<sub>16</sub>+FE<sub>16</sub>から 11000<sub>16</sub>+(5+2n) × 100<sub>16</sub>+01<sub>16</sub>までのアドレス領域。(n=0 ~ 19)

114FE <sub>16</sub> ~ 11501 <sub>16</sub> 番地
116FE <sub>16</sub> ~ 11701 <sub>16</sub> 番地
⋮
138FE <sub>16</sub> ~ 13901 <sub>16</sub> 番地
13AFE <sub>16</sub> ~ 13B01 <sub>16</sub> 番地

注2) 本品種は、09<sub>16</sub>の文字コードはClosedCaptionを表示する場合の“transparent space”のキャラクタとして使用することを前提として設計しています。

従って、09<sub>16</sub>の文字コードに対応するアドレス(40バイト分)には“00<sub>16</sub>”を入れて下さい。

<“transparent space”フォントデータ格納領域>

… 11000<sub>16</sub>+(4+2n) × 100<sub>16</sub>+12<sub>16</sub>から 11000<sub>16</sub>+(4+2n) × 100<sub>16</sub>+13<sub>16</sub>までのアドレス領域。(n=0 ~ 19)

11412 <sub>16</sub> ~ 11413 <sub>16</sub> 番地
11612 <sub>16</sub> ~ 11613 <sub>16</sub> 番地
⋮
13812 <sub>16</sub> ~ 13813 <sub>16</sub> 番地
13A12 <sub>16</sub> ~ 13A13 <sub>16</sub> 番地